

## 19. 長野県歯科保健実態調査にみる県民の歯と口の健康について

永井明子、成見みゆき、花岡佐喜子、小林良清（長野県健康福祉部健康長寿課）、井口光世（諏訪湖畔病院）  
 キーワード：歯科保健、口腔衛生、長野県、8020 運動

**要旨：**長野県民の歯科保健に関する意識や実態等を把握するため、平成 22 年に長野県歯科保健実態調査を行った。80 歳で 20 本以上自分の歯を有する者の割合が 38.4% と平成 16 年の調査結果である 20.5% より改善しており、また、8020 運動を知る者の割合も 50.2% と、平成 16 年の値より増加し、長野県民の口腔内状態や歯科保健に対する意識の向上が示されたが、毎年の定期的な歯科健診受診者、過去 1 年間に個別的に歯みがき指導を受けた者、歯石除去等を受けた者は目標値に達成せず、かかりつけ歯科医を持つ者の割合は平成 16 年度の値から減少するなど、日常的な歯科保健行動には結びついていないことが示唆された。

### A. 目的

この調査<sup>1)</sup>は、長野県民の口腔内状態や歯科保健に関する意識・行動を把握し、長野県健康増進計画「健康グレードアップながの 21」に掲げられた歯の健康の目標値の達成状況等の判定や、県の歯科保健の対策の効果についての検討を行い、今後の歯科保健対策の推進に必要な基礎資料を得て、平成 23 年度に策定する長野県歯科保健推進計画の指標等の設定に役立てることを目的とし、実施した。

### B. 方法

#### (1) 調査対象

平成 22 年国民生活基礎調査において設定された単位区から保健所管区を層として層化無作為抽出（クラスター抽出）した 34 単位区の世帯員のうち、15 歳以上の者全てを対象とした。

#### (2) 調査内容

##### ①口腔内診査

表 1 に年齢・性別の診査実施者数を示す。

- 診査内容
- 顎関節及び歯列・咬合の状態
  - 視診による歯の状態、歯周組織の状態
  - 補綴物の状態
  - 補綴の必要性視診による歯の状態
  - 歯周組織の状態

##### ②歯科保健アンケート調査

表 2 に年齢・性別のアンケート回答者数を示す。

アンケート内容は、8020 運動の知識の有無、歯科健診状況、歯みがきの状況、歯科医院の受診目的、かかりつけ歯科医の有無、個別歯みがき指導の経験、歯石除去頻度等の 15 項目である。

#### (3) 集計値の比較

「健康グレードアップながの 21」に掲げられた歯の健康の目標値（平成 24 年度の達成目標）について、平成 16 年度に実施された県民歯科保健実態調査の結果と比較した。

表 1 年齢別口腔内診査実施者数（人）

	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	合計
男性	22	30	50	93	85	98	90	41	509
女性	8	13	24	34	37	40	45	21	222
女性	14	17	26	59	48	58	45	20	287

表 2 年齢別歯科保健アンケート調査回答者数（人）

	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	合計
男性	59	85	126	184	199	159	147	97	1056
女性	25	38	67	86	100	78	65	41	500
女性	34	47	59	98	99	81	82	56	556

### C. 結果

「健康グレードアップながの 21」の目標値について平成 16 年度の結果との比較（表 3～表 10）

表 3 60 歳で 24 本以上自分の歯を有する者の割合

22 年度	16 年度	目標値
61.8	42.2	50% 以上

※55 歳～65 歳の年齢の者で集計

表 4 80 歳で 20 本以上自分の歯を有する者の割合

22 年度	16 年度	目標値
38.4	20.5	30% 以上

※75 歳以上の年齢の者で集計

表 5 4 mm 以上の歯周ポケットを有する者の割合

	22 年度	16 年度	目標値
30 歳代	32.0	19.2	1 割以上減少
40 歳代	37.6	39.2	30% 以下
50 歳代	41.2	47.6	40% 以下

### D. 考察

平成 23 年度に実施された歯科疾患実態調査<sup>2)</sup>の結果より、80 歳で自分の歯を有する者の割合は、長野県のほうが 0.1% だが上回っている。歯科疾患実態調査では 75 歳以上 85 歳以下の年齢で集計しているが、

表6 8020 運動を知っている者の割合

22年度	16年度	目標値
50.2	44.0	50%以上

表7 かかりつけ歯科医を持つ者の割合

22年度	16年度	目標値
74.2	76.9	80%以上

表8 過去1年間に個別的に口腔内清掃指導を受けたことのある者の割合

22年度	16年度	目標値
35.4	33.1	50%以上

表9 毎年定期的に歯石除去等を受けている者の割合

22年度	16年度	目標値
29.4	12.7	30%以上

※55歳～65歳の年齢の者で集計

表10 毎年歯科医院で定期的に歯科健診を受ける者の割合

	22年度	16年度	目標値
20歳代	5.9	13.1	30%以上
30歳代	4.8	11.8	
40歳代	12.0	17.5	
50歳代	11.1	18.9	

長野県の値は、75歳以上の者を全て含めているため、全国の値より、8020達成者は多いことがうかがえる。

60歳で24本以上自分の歯を有する者の割合は、歯科疾患実態調査の結果で提示されていないため、比較はできないが、口腔内診査の結果より、長野県の60歳代の1人平均現在歯数は、22.0本であり、歯科疾患実態調査の結果では、21.9本であるため、全国平均と同程度であった。

さらに現在歯数を比較すると、長野県の70歳代は17.2本、80歳以上は11.4本であり、歯科疾患実態調査の値である16.5本、10.3本より、現在歯は多い結果であった。

次に、歯周疾患の罹患状況は、表5より、40歳代、50歳代で4mm以上の歯周ポケットを持つ者は、平成16年度の値よりは若干減少しているものの、「健康グレードアップながの21」の目標値には達成せず、30歳代の者については、平成16年度の値より6割も増加していることがわかった。

これらは、歯科疾患実態調査の結果である、30歳代21.8%、40歳代28.0%、50歳代40.9%、という全

国の値と比較しても多く、60歳代、70歳代、80歳以上でも、長野県の値は、58.2%、58.9%、51.2%に対し、全国の値は49.1%、45.8%、39.7%と高齢期でも中等度の歯周疾患の者の割合は多い。

青・壮年期の1人平均現在歯数を歯科疾患実態調査の結果と比較すると、長野県の40歳代は27.9本、50歳代は20.8本、全国は各々27.5本、25.2本であり、50歳代の現在歯数は少ないが、40歳代と前述した60歳代では同程度であった。

これらのことから、8020や6024の達成者は、「健康グレードアップながの21」の目標値に達し、50歳代を除き、現在歯数も長野県と全国の値は同程度であるが、4mm以上の歯周ポケットを持つ者の割合は、「健康グレードアップながの21」の目標値に達せず、どの年齢でも全国の値より多く、長野県民の口腔内状況として、歯が現存していても、中等度以上の歯周病に罹患していることが示唆された。

次に、アンケートの結果から、全体の4人に3人はかかりつけ歯科医を有しているが、歯科医院で定期的に歯科健診を受けている者は10.4%と少なく、10人に1人しか定期的な歯科健診を受けていないことがわかった。

「健康グレードアップながの21」の目標値に関して、平成16年度の値と比較すると、8020、6024の達成者や8020運動を知る者の割合は増加し、口腔内状態や歯科保健に対する意識の向上は一見示されているが、毎年の定期的な歯科健診受診者、過去1年間に個別的に歯みがき指導を受けた者、歯石除去等を受けた者は、健康増進計画の目標値に達成せず、かかりつけ歯科医を持つ者の割合は平成16年度の値から減少するなど、日常的な歯科保健行動には結びついておらず、こういったことが原因で、全国の値と比較して、どの年齢でも、中等度以上の歯周病に罹患している者が多いことが示唆された。

今後は、平成23年度に策定した「長野県歯科保健推進計画」の推進に当たって、こうした課題の解決・改善に重点的に取り組む必要がある。

#### 参考文献

- 1) 長野県歯科保健実態調査  
<http://www.pref.nagano.lg.jp/eisei/hokenyob/kenzo/8020/8020jittaichosa2010.htm>
- 2) 平成23年度歯科疾患実態調査  
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/62-23.html>